

みどりの風

2025

5

令和7年

今月の表紙「収穫できたね」(撮影：小林 司 様)

第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品



CONTENTS

- 令和6年度農政連リーダー研修会と第13回農業・農村の風景フォトコンテスト表彰式を開催
- 令和6年度 JA熊本中央会・連合会臨時総会
- 「JAグループ農政推進の集い」が開催される
- 参議院議員 藤木しんや氏コラム
- 参議院議員 山田としお氏コラム
- JA女性 想いをひとつに かなえよう✿
- 中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

東京都知事選挙、兵庫県知事選挙で有権者の投票動向に大きく影響したのがSNSの活用である。

昨年のアメリカ大統領選挙では両陣営がSNSのX(旧ツイッター)上で対立候補の批判も含め論戦を展開し、支持者によるデマ情報も飛び交った。

SNSは便利で不特定多数の人に情報が届く一方、その情報を信じるかどうかは利用者に委ねられている。

SNSを使った情報発信は新しい手法ではないが、近年の短い動画を編集して拡散したり、支持者が「#(ハッシュタグ)」を使い投稿するところトレンドが急速に普及してきた。

平成28年の熊本地震では、ツイッターにライオンが路上に立っている写真が投稿され、デマ情報とわかるまで、2万件以上がリツイートされた。

兵庫県知事選挙では、百条委員会が連日報道され、その内容とSNSでの情報は真つ向から対立し、有権者がどこに真実を求めたか疑問が残った。

ある世論調査によると、若者ほどネット情報に関心を示し、選挙の行動に影響したと回答している。

SNSは動画の視聴回数や拡散度によって収益化が期待できるため、過激な投稿で表示回数を増やすというインセンティブが働きがちだ。

今後の選挙戦略として、SNS戦略の巧者が選挙を制するようになってきた。この傾向は都市部でより大きくなるだろう。

候補者の声を生で聞いて投票行動に反映するこれまでのやり方はなくなっていくのだろうか。

農政連は、SNSを駆使しながら、今後も候補者の生の声を届けるため、各地区を巡回し、候補者の顔を見てもらい、声を聴いともらい、その想いを届ける活動を今後も行っていく。

盟友の皆さまのご協力をお願いします。

令和6年度農政連リーダー研修会と第13回農業・農村の風景フォトコンテスト表彰式を開催

熊本県農業者政治連盟は3月3日、熊本市内で「令和6年度農政連リーダー研修会」を開催しました。

研修会には、農政連委員、生産者代表、青壮年部・女性部代表、J・A・連合会役員など約340名が参加しました。

主催者を代表し、農政連の宮本隆幸委員長（J・A熊本中央会会長）は「農業をめぐる情勢は、地球温暖化による高温障害などの自然災害をはじめ、生産資材価格の高止まり等が続く中、農畜産物の適正な価格は、未だ実現しておらず、様々な課題が山積している。本日の研修会では農政連の重要性を再認識いただくとともに、この夏の参議院選に向け、農政連の盟友が一丸となって

組織代表の支援に取り組んでいただきたい」と、あいさつしました。

この後「自民党政権と農政の舞台裏」と題し、農政ジャーナリストの吉田修氏による講演がありました。

吉田氏は、昭和45年から自民党事務局として最初の農業基本法の制定以降の自民党農政と民主党政権下の農政について、当時の農林水産大臣等が如何に農業者の思いを汲み奮闘してきたかを関係国会議員のエピソードを交え話がありました。

また、研修会に先立ち、J・Aグループ熊本とR・K・K熊本放送主催の「第13回未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト」の表彰式を行いました。

このフォトコンテストは、四季折々に移りゆく風景、その素晴らしい風景を未来の子供たちに残したいという思いから始まりました。今年で13回目を迎え、本年度は175名、658点の応募があり、グランプリには小林司さん（熊本市）が選ばれました。

なお、受賞者・受賞作品については、先月号（4月号）に掲載しています。たくさん作品を応募いただき、ありがとうございます。

なお、当日は先の第4回農政連委員会での推薦が決定し、7月実施予定の参議院議員選挙熊本選挙区に立候補予定の馬場成志氏に推薦状が授与されました。

推薦状を受け取った馬場成志氏は「食料を作っていたただける方に敬意をもってもらえるよう、国民に訴えなければならぬ。農業に携わる皆さんと共に歩ませてもらいたい」と応えました。

併せて、同参議院議員選挙全国比例区に立候補予定で農政連推薦の東野ひでき氏も駆けつけ「担い手が誇りを持って農業をやっているような環境をつくって行きたい。現場と同じ目線で頑張っていきたい」と農政への想いを熱く語りました。



▲研修会で挨拶を行う農政連の宮本隆幸委員長



▲フォトコンテストで入賞した5名の皆さん
(左端は中央会の宮本会長、右端はRKKの森本局長)



▲馬場成志氏に推薦状を手渡す宮本隆幸農政連委員長



▲農政への想いを熱く語る東野ひでき氏

令和6年度 JA熊本中央会・連合会臨時総会

JA熊本中央会と各連合会は3月28日、熊本市で臨時総会を開催し、令和7年度事業計画、収支予算などの議案を承認しました。

令和7年度は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向け各種の課題解決に直実に取り組む重要な年度となります。

中央会は①持続可能な農業・農村像の実現に向けた政策実現の推進、②農業者の所得増大等に向けたJA自己改革に対する総合的な支援の実践、③持続可能なJAの組織・経営基盤確立に向けた総合的な支援の実践、④会員ニーズに応え得る本会事業の重点化と支援の強化、を最重要課題として取り組むこととしています。

経済連は①生産基盤の拡大と県産農畜産物の販売力発揮、②生産・流通コストの低減と事業競争力の強化、③経済



▲挨拶をするJA熊本中央会の宮本隆幸会長

連グループ経営基盤の強化、④県域機能強化に向けた取り組み、を重点取組事項に据えています。

厚生連は①JAグループ熊本の健診機関としての体制強化、②安心・安全を与える施設健診・診療体制の整備、③安全な巡回健診の実施と信頼される人材の育成、④産業保健活動の積極的な展開と健康増進活動への取り組みなど6つの重点施策を掲げました。

中央会の宮本隆幸会長は「農家が将来に希望を持って、意欲的に農業経営ができるよう取り組みを進めていく」と述べました。

経済連の丁道夫会長は「令和7年度は更なる県域機能の発揮により、事業競争力を強化させ、目標達成に向け、役員一体となつて取り組んでいく」と話しました。



▲挨拶をするJA熊本経済連の丁道夫会長

「JAグループ農政推進の集い」が開催される

JA全中と全国農業者農政運動組織連盟(全国農政連)は、3月6日に「JAグループ農政推進の集い」を開催しました。

令和6年度は、生産資材価格が高止まる一方、多くの品目において価格への転嫁は十分追いついておらず、自然災害の激甚化・頻発化などにより、生産現場は厳しい状況が続いています。

他方、国際的には、政治・経済情勢の一層の不透明化、気候変動、世界的な人口増加等の複合的なリスクが顕在化する中、食料安全保障の確保・強化が課題となっています。

こうした中、食料・農業・農村基本法が改正され、適正な価格形成の法制化を含む関連法・施策の具体化に向けた検討、食料安全保障対策予算をはじめとする農業関連予算の確保、税制改正等において、与党国会議員には多大な尽力をいただき、依然として厳しい状況が続く生産現場を力強く後押しいただきました。

このJAグループ農政推進の集いは、今後とも与党国会議員と連携を深め、農業・農村・JAグループの発展に向けた農政のさらなる推進を期すために開催されました。

主催者挨拶で、JA全中の山野徹会長は「令



▲主催者挨拶を行う全中の山野徹会長

和6年度の我が国農業は、多くの品目において価格への転嫁は十分に追いついておらず、生産現場にとつて厳しい状況が続いている。令和7年度は、新たな基本計画の策定、適正な価格形成の法制化、水田・畑作政策の見直しなど、今後の農政や将来の営農展望を方向付ける年となる。」と述べました。

また、来賓として登壇した自民党の森山裕幹事長兼食料安全保障強化本部長は、「改正基本法の理念をしっかりと反映した次期基本計画を策定し、そのために必要な予算については、初動5年間を「農業構造転換集中対策期間」と位置づけ、農業予算の増額を実現したい」とあいさつしました。

この他、公明党の谷合正明農林水産業活性化調査会長や自民党の宮下一郎総合農林政策調査会長からも力強いメッセージをいただきました。



▲来賓挨拶を行う自民党の森山裕幹事長

全国農政連推薦・農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも「百姓宣言」

【次期食料・農業・農村基本計画を党として決定】

3月、自民党食料安全保障強化本部・総合農林政策調査会・農林部会合同会議が3回開催されました。会合では、次期食料・農業・農村基本計画の本文案について議論が行われ、3月最終週に党として了承されました。

私もこれまで関連会合で何度も意見を添えて参りました。今回の基本法改正および次期基本計画策定の最大の目的は、食料安全保障を明確に位置付けることを軸として、生産者が再生産可能となる所得の確保と基幹的農業従事者の減少下げ止めを実現することです。基本計画に基づき、各員体的施策を現場に即してよりよいものにしていくため、唯一の専業農家出身議員として全力で取り組んで参ります。

【次期品目別方針(果樹・花き・茶)を党として決定】

3月14日(金)、自民党野菜・果樹・畑作物等対策委員会を開催し、委員長として司会進行を務めました。会合では、5年に一度見直しの3つの次期基本方針(果樹農業振興基本方針「茶業及びお茶文化振興基本方針」「花き産業及び花き文化振興基本方針」)の本文案について議論を行い、党として了承に至りました。



▲3月14日 自民党野菜・果樹・畑作物等対策委員会

委員長として、農水省に対して文案調整に尽力して参りました。各方針が、それぞれの分野の生産者や関連産業従事者に対し、意欲を持って取り組む後押しになって欲しいと思います。

【第71回JA全国青年大会で来賓挨拶】

2月27日(木)、埼玉県大宮ソニックシティ大ホールにて、第71回JA全国青年大会が開催され、来賓挨拶をさせていただきました。全国から1,000名以上の盟友が集まる中で、「農政の大転換期を迎える今、全国各地のJA青年組織が、JA青年組織綱領にある『誇り高き青年の情熱』を持ち続け、地域農業の発展に向けて全力で取り組めば、きっと次世代に日本の食と農業をつないでいける、頑張つて欲しい」と激励の挨拶をしました。

また、2月28日(金)には、JA全青協70周年記念セミナーが開催され、来賓挨拶をさせていただきました。私は、平成16年度に副会長、平成17年度に第52代会長として活動させていただきました。

その当時のことも思い出しながら、これまで政策を勝ち取るため戦ってきた諸先輩方に敬意を表します。70年は通過点、未来永劫、盟友が羽ばたき、JA青年活動が続き、地域農業が発展していけるよう、全力で取り組んでいただきたいと思います。と挨拶しました。今後ともJAの青年部活動が、地域農業の発展を牽引できるよう、益々活性化して欲しいと感じた次第です。



▲2月28日 JA全青協70周年記念パーティー

全国・農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

新年度のスタートにあたって

多くの皆さんは、4月から新年度を迎えられたと思います。「年度の考え方が日本に入ってきたのは、明治時代のことでした。江戸時代、年貢はコメによる物納でしたが、明治になって、現金での金納に変わったため、農民はコメの収穫を終え、それを売って現金に換えてから納税しました。一方、政府は現金を徴収して予算編成する必要がありました。1月から新年度とすることは、スケジュール上難しかったため、会計年度は4月からと設定されたそうです。コメが、いかに我が国の文化や制度に深く根ざしているか、ひとつの証左ではないでしょうか。

ところで、近年、地震や大雨・台風などの自然災害の頻発・激甚化に加え、異常気象や農業用資材の高騰等によって、農業生産の現場は大きな影響を被っています。また、異常気象によるキャベツ等一部野菜価格の高騰や、備蓄米の放出が決まってもなお、価格の高止まりが続いているコメ流通の混乱は、国民生活にも大きな影響を及ぼしています。

さらに、この夏に参議院議員選挙が行われますが、昨年の総選挙の結果、衆議院では少数与党となっており、国会運営を含め、政治状況は不安

定さを増しています。

こうした中で、我が国の農業・農村が直面している厳しい諸課題に対し、食料安全保障の強化や持続可能な農業・農村の実現をめざして、昨年、四半世紀ぶりに「食料・農業・農村基本法」が改正され、先月には、基本法の理念を具体化する「食料・農業・農村基本計画」とあわせ「酪肉近」(酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針)が閣議決定されました。あわせて、今通常国会には、合理的な費用を考慮した価格形成を盛り込んだ法案が提出されています。

政府は、今後5年間を、農業の構造転換を集中的に進める「農業構造転換集中対策期間」と位置づけていますが、何より必要なのは、農業者が将来展望を持つて営農継続できる中長期的な政策の確立と、それを裏打ちする万全な予算の確保であり、私は、全力で取り組んでまいります。

ともに頑張りましょう。



▲自民党大会表彰者表彰状授与式

JA本渡五和女性部活動報告

JA本渡五和は、周囲を海に囲まれた天草下島の北東部に位置し、冬場の温暖な気候を活かし、ボンカンやデコボン等の柑橘類や、レタス等の露地野菜、繁殖牛が生産されています。

●天草産新米をPR

天草郡市3JA青壮年部・女性部合同で企画する新米キャンペーンは、地元で収穫された「コシヒカリ」を味わってもらおうと、グリーントップ本渡の店頭で先着200名に配布しました。天草は県下でもいち早く新米を収穫できることから、毎年このキャンペーンを行い地域住民に地産地消を呼びかけています。



▲新米を配布する部員

JA本渡五和女性部は、吉田陽子部長を中心に8支部270名で構成されており、部員の高齢化や減少が進む中、仲間と一緒に楽しめる活動を行っています。

●基本農政研修会

「21世紀の農業を考える」をテーマに、青壮年部・女性部・生産部会・JA役職員総勢150人が集い農業に関する情勢等について理解と、情報共有を図りました。

講演は、参議院議員の藤木しんや氏を招き、「これからの農業政策について」と題し、農業をとりまく情勢や農政の動きについて話がありました。日本の食料自給率アップの必要性や、若者達への魅力ある農業を目指す訴えに皆熱心に耳を傾けていました。



▲熱心に傾聴する参加者ら

●ふれあいの旅

部員同士の親睦を深めることを目的として、毎年、日帰り研修を開催しています。本年度は、10月28日に27名の参加があり、新千円札で話題となった小国の北里柴三郎記念館、鍋ヶ滝や、石本豆腐屋を訪ね楽しむ時間を過ごしました。



▲北里柴三郎銅像前にて



▲涌蓋山を模した記念館

●リーダー学習会

東日本大震災発生から14年経過し、防災意識を高めようと、3月12日女性部リーダー学習会を開催しました。天草市ボランティア連絡協議会の方を講師に迎え「命を守るための防災研修」と題し、49名が参加しました。実際の災害映像が流れると、誰人喋る事無く見入っていました。

甚大な災害が起きた際の生き抜く術を、例えば携帯用浄水器を用いた水の確保、発泡スチロールで作る簡易トイレ、汚物処理の仕方、ブルーシートで作るテント等いろいろと教わり、「早速、準備したい」とあちこちから声が聞かれました。



▲ブルーシートで簡単テント実演

「令和6年度熊本県JA広報・日本農業新聞大会」を開催

JA熊本中央会は3月3日、令和6年度熊本県JA広報・日本農業新聞大会を開催しました。本大会は県内JAの広報活動の意義・重要性の再認識や、広報活動の強化を図ることの他、日本農業新聞の情報発信や普及拡大を目的としています。また、第8回JA広報コンクールや令和6年度日本農業新聞通信員功績表彰式等を行いました。

中央会の宮本隆幸会長は「JAの広報がさらに強化され、JAと組合員地域とのつながりが、ますます深まることを期待すること挨拶し、同コンクールで最優秀賞を受賞したJA菊池総務部企画広報課の溝口知紗職員による広報活動の実践発表の他、日本農業新聞の緒方大造論説委員からは「激動の政局と農政展望」と題して講演が行われました。

表彰JAと表彰対象の通信員は以下の通り。かっこ内は所属JA。(敬称略)



▲広報コンクール受賞JAの皆さん

◇JA広報コンクール

◆総合部

- ▽最優秀賞ⅡJA菊池
- ▽優秀賞ⅡJA熊本うき
- ▽優良賞ⅡJA鹿本
- ◆組合員向け広報誌の部
- ◆優秀賞ⅡJA熊本うき
- ◆地域密着型広報活動の部
- ◆優秀賞ⅡJA鹿本
- ◆ウエブメディア活用部
- ◆優秀賞ⅡJA菊池
- ◆審査員特別賞ⅡJAたまな

◇通信員表彰

- (全国)
- ▽12月最優秀写真賞Ⅱ松原愛(たまな)
- ▽4月優秀写真賞Ⅱ永村章(熊本うき)
- ▽6月優秀写真賞Ⅱ松本たまき(あまくさ)
- ▽10月最優秀写真賞Ⅱ藤岡来未(やつし)(県域)
- ▽最多送稿賞Ⅱ松原愛(たまな)
- ▽敢闘賞Ⅱ山内洋輔(あしきた)
- 松本たまき(あまくさ)
- 田崎亜樹(れいほく)
- 青木風香(経済連)
- ▽新人賞Ⅱ緒万里帆(熊本市)



▲功績表彰を受けた通信員の皆さん

令和7年産春夏瓜類・春野菜出荷大会を開催

持続可能な農業を目指して、販売目標金額360億円目指す

JA熊本経済連は3月11日、熊本中央区のホテルで令和7年産春夏瓜類・春野菜出荷大会を開催しました。生産者や全国の取引市場、JA関係者などおよそ260人が出席し、産地と市場が一体となり、販売目標金額360億円(春夏瓜類90億円、春野菜270億円)の達成を誓いました。

経済連は基本方針に

- ① 持続可能な産地体制
 - ② 県域一体となった販売対策
 - ③ 多様な販促活動とPR
- の3つを掲げ、環境変化に対応した商品づくりと安定供給に努め、消費者に支持される「熊本ブランド」の確立に取り組みます。

経済連の丁道夫会長はあいさつで「寒波の襲来や干ばつ傾向などもあったが、生育はおおむね順調。全国の消費者に喜ばれる青果物の安定生産、安定供給に取り組む」と決意を述べました。

令和7年産における春夏瓜類のすいか類、メロン類の作付面積は生産者の高齢化などの影響で減少傾向。春野菜の作付も減少傾向ですが、ミニトマトは他品目からの転換等で増加しています。本年産の生産計画(3~6月)は、春夏瓜類で作付面積766ヘクタール(前年比96%)、出荷数量2万5,345t(同102%)、春野菜で作付面積2,586ヘクタール(同97%)、出荷数量7万6,007t(同103%)を見込みます。



▲あいさつをする丁道夫会長



▲野菜・果実が飾られた会場

JA共済は、皆様の新生活を応援します★

この春、入園、入学、就職、転職、セカンドライフのスタートなど、ご自身やご家族が様々な環境の変化を迎える方も多いのではないしょうか。JA共済では、ひと・いえ・くるまの総合保障でおひとりおひとりそれぞれに必要な保障を

トータルでご提供しています。環境の変化は保障の見直しに最適な時です。この機会に、ご家族の安心の保障を見直してみませんか？



★★★★ ひとの保障 ★★★★★

＜終身共済・医療共済・年金共済＞ご自身やお子様が新社会人として働き始める方には、終身共済と医療共済、そして年金共済を併せておすすめします。万一の時残されるご家族のための保障と、けがや病気に備える保障、老後の資金については、若いうちから計画的に備えておきたいものです。

★★★★ いえの保障 ★★★★★

＜建物更生共済＞建物はもちろんですが、家財の保障を忘れていませんか？近年、大規模な地震や水災、夏の落雷によって、家財にも大きな被害が出ています。一度に複数の家財が被害を受ければ、想像以上に費用がかさむこともあります。ぜひ「建物更生共済My家財プラス」で万全の備えを整えましょう。

★★★★ くるまの保障 ★★★★★

＜自動車共済＞高校卒業を機にお様が自動車運転免許を取得されるご家庭も多いのではないのでしょうか。現在ご家庭にあるお車をお子様も運転される場合は、ご加入の自動車共済（保険）の運転者年齢条件等を必ずご確認ください。また、お子様が自転車通学を開始される場合、「日常生活賠償責任特約マールモア」の付加をぜひご確認ください。熊本県では、令和3年10月1日から自転車共済（保険）への加入が義務付けられています。

農政連

県産農林水産物等の輸出が過去最高を更新

熊本県産農林水産物等の輸出実績

令和5年度の熊本県産農林水産物等の輸出額は、122.4億円、対前年度比116%となり11年連続で過去最高を更新しました。内訳を見てみると、農畜産物が122%増、林産物が117%増、水産物が105%増となっています。

県は令和5年度の県産農林水産物等の輸出額目標を110億円としていましたが、これを大きく上回りました。アジアを中心とした日本産食品の人気を背景に、いちご・メロンや牛肉といった農畜産物が大きく伸びました。

分野別では、農畜産物が22%増の54億2千万円となり、初めて50億円を突破しました。林産物は17%増の39億円、水産物は5%増の29億2千万円といずれも増加しました。

品目別では、牛肉が輸出額の5割以上を占め、和牛人気に支えられ安定して輸出されました。いちごは、アジアでの需要の高まりから、台湾や香港向けが大幅に増加しました。メロンは、連携協定を締結した小売店を中心に輸出が拡大しました。

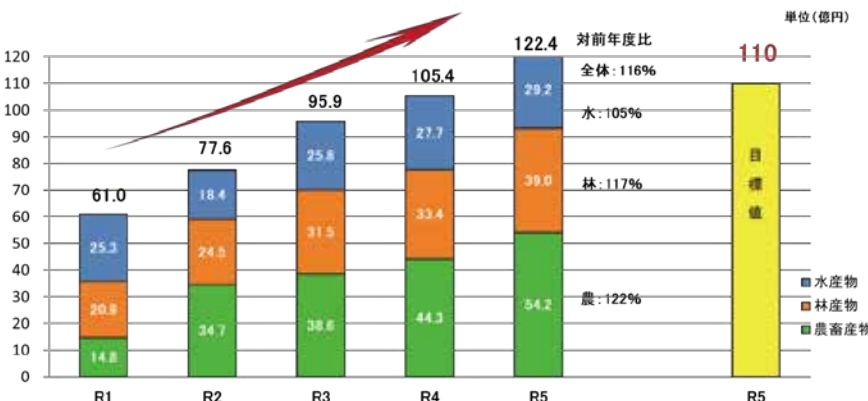
くまもと農業産出額

また、県の公表によると、令和5年の農業産出額は、3,757億円となり前年より24.5億円増加し、全国順位は5位でした。主な内訳は、畜産が1,371億円、野菜が1,365億円、果実が391億円、米が328億円、花きが

117億円、工芸作物が73億円等となっています。

生産農業所得増加で全国2位に
農水省がまとめた令和5年の都道府県別生産農業所得で熊本県は1、554億円となりました。全国4位だった前年から10.8億円増え、統計開始以来、初めて全国2位となりました。生産農業所得は、農業産出額から肥料代などの経費を差し引いたもので、農家の所得に相当します。

【県産農林水産物等の輸出実績の推移】



牛のモノUMENTが目印!

24h 営業

くまもと 和牛

りんどうポーク

NikuGacha!

GRAND OPEN

12月12日より24時間営業

JA Niku Gacha - ニクガチャ - とは

肉ガチャでは、和牛・りんどうポークなど熊本県産ブランド肉が単品またはセットで当たります。当たりが出たら支払額の2倍相当の豪華お肉も。運試しで特別なお肉をゲットしよう!

肉ガチャ

場所: you+you くまもと 農畜産物市場駐車場一角

運営: 株式会社熊本畜産流通センター

JAふれあい 食材宅配 ホームページ

あなたの知りたいが、丸分かり!

公開中!!

JA ふれあい 食材宅配 ホームページ 公開中です。

管理栄養士がつくる家族の健康を考えたっておいしレシピの紹介や、こだわり食材の紹介、写真や動画で皆様にとって見やすく、楽しいサイト作りを心がけています。食材を使った料理を作る時、献立に困った時、お時間のある時に気軽に見て頂ければと思います。

スマホにも対応

新会員登録集中

JAふれあい食材 熊本 検索

～お問合せ先～ 生活組合課

JA熊本経済連 TEL:096-328-1192

webでもぜひご覧ください

「あしきた牛」
おいしいきの法則

角の先から尻の先まで使われている

hug

「食」と「農」の魅力を伝える「ココロとカラダを育む」マガジン。
vol.64 JA直売所等の店頭ラックにて無料配布中!

JAグループ熊本 ホームページ

新しくなった 充実のがん保障。

大きな安心で、「生きる」を応援したい。

がん共済

がん治療の変化にしっかり対応!

通算の支払限度なく、所定のがん治療を受けた月ごとに共済金が受け取れます!

診断保障やがん診断時共済金払込免除特例など自由に保障を設計できます!

JA共済

発行／熊本県農業者政治連盟

熊本市中中央区南十郎町7-3 電話 096-333-0681-1284

編集責任者／中村 隆宏

●発行日／令和7年4月15日(毎月1回15日発行)

●定価／一部50円(但し、会員の購読料は会費の中に含む)(税別)

平均寿命と健康寿命の違いをご存じですか。高齢化社会とは65歳以上の高齢者が「人口の7%」を超えた社会を指す呼び方です。日本では昭和45年から高齢化率が7.1%を超え高齢化社会へ突入しました。さらに、65歳以上の高齢者の割合が「人口の21%」を超えた社会を「超高齢社会」と呼び、平成22年には23%を超え、超高齢社会を迎えました。

医療の進歩と健康意識の高まりが平均寿命を延ばしています。定年を迎えるころになると、退職後は好きな趣味や旅行を満喫したいと考えている方も多くいらっしゃいます。しかし、平均寿命まで体が自由に動くとは限りません。では、何歳までならば体が自由に動くかと考えると、ここに健康寿命という言葉が出てきます。健康寿命は平均寿命よりも男性で8年、女性で12年も短い結果になります。元氣なうちに趣味や旅行にお金を使って充実した人生を送りたいと思いませんか。

「ゴーヤの緑トンネル」



撮影：丸塚 絵梨 様

第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景
フォトコンテスト入選作品

あとがき